

## 第7回アジア太平洋地域UNION会議（APRC）

2019年5月23～26日，マニラ，フィリピン

“Unity in Diversity: One Against Tuberculosis and Other Lung Diseases”



結核予防会結核研究所

臨床・疫学部部长 大角 晃弘

「多様性の中での一致：結核と他の肺疾患に対して一つとなる」との主題のもと、第7回アジア太平洋地域UNION（国際結核肺疾患予防連合）会議が、フィリピンのマニラで開催されました。UNIONのアジア太平洋地域は、東南アジア地域・東アジア地域・太平洋地域・オセアニア地域における様々な文化的・歴史的・経済的背景を持った国々を包括しており、各地域・各国間で多様性を有しています。このような地域で、「互いの多様性を認めつつも、心を一つにして結核や肺疾患対策を推進し、肺の健康を維持する事で、一丸となって協力していきましょう！」との主催者側の意向を感じることが出来ました。

結核対策に関しては、結核のワクチン開発状況・潜在性結核感染症の診断と治療・多剤耐性結核を含む小児結核対策・多剤耐性結核の治療・結核対策における地域住民参加促進・結核対策と他の疾病対策（含HIV感染症対策・糖尿病対策・喫煙対策）との連携強化策等の分野について議論するシンポジウムが開催されま

した。結核対策以外に関しては、代表的呼吸器疾患である喘息・慢性閉塞性肺疾患・肺炎・肺癌・非結核性抗酸菌症等について討議するシンポジウムが開催され、肺の健康に関わる幅広い疾患対策についての情報提供と議論とがなされました。

筆者は「シンポジウム6 結核対策と他の疾病対策との連携強化」にて、結核対策と喫煙対策の連携強化策について発表しましたが、他にも、喫煙対策推進の重要性については、喘息・慢性閉塞性肺疾患・肺癌等の予防と患者ケアとの関連で、たびたび指摘されていました。周知のこととして、近年、アジア太平洋地域においても、急激に電子タバコや加熱式タバコが市場に広がっており、肺の健康推進の立場からは、その健康被害について危惧されているところです。そのような中、これまでの結核対策と喫煙対策の連携強化策においても、電子タバコや加熱式タバコ対策についても考慮しなければならない時代になっていることを確認しました。

日本を含むアジア太平洋地域における多様な文化的・歴史的背景を持つ人々が一堂に集まり、肺の健康に関わる基礎的研究から応用研究までの幅広い分野において情報を共有し、議論する貴重な機会となりました。🍵



写真 シンポジウム6の司会者と演者（筆者は右から2番目）

